

天然自然の摂理～元の理～

2021.1.5 ver.

-作成途中- ©小林真

人間が生きる意味。それは人を助け楽しませ、遊び心の中に喜び勇む道、「陽気遊山」にある。自分の身体、又、この世の全ては、陽気遊山の為に借りている物で、心のみが自由な存在である。心が自ら陽気遊山に向かう時、現実はすぐに変わり始める。この図表は、世の中の事象・現象を全て解き明かすものである。深く思案してみてほしい。

どんな道も、案じ心は持たぬよう。※「理」=事実、要因

どんな時も、この身、全てを借りていることを忘れない。

どんな小さな事象にも、自分にとって何かの意味がある。

十柱の働きには、「陰の働き=神」主体(陽3:陰7)のものと「陽の働き=人間」主体(陽7:陰3)のものが存在する。

自分ではなく、周りを立てる心。普段は見えない陰で下から支え、大事な所で俊敏に足を運びつぱって支える。局面を見極める洞察力と仲間(他の骨)との密接な連携が欠かせない。

足の役割。頭低く、影で下の方から支える柱の働き。
ここぞという所で俊敏に硬化する働き。

物事が治まる理。

陰で周りを引き立て支え、大事な所で俊敏につっぱる心
陽3:陰7
⑥月よみ
体内:骨、首、足腰、男の道具
世界:つっぱり支える働き
立てる働き、柱、茎、岩石、地殻
遠心力、膨張力、反発力
外へ移動、凸型
六日六だいおさまる
ろくに治まる
北
立春
一日はじまる

物事の起点となり、目的を持ち希望に向かって陰で尽くす心
左の役割
陽3:陰7
①くにとこたち
体内:眼、心根、睡眠、感覚神経
副交感神経、涙、潤い、体の70%水分
世界:水、水素、雨、根、夜、N極
マイナス電子、地球の70%水分
宇宙の70%暗黒エネルギー
一日はじまる
北
立春
十日十分
朝

心定めが全ての起点。
お蔭様の理。
朝起き 陰徳の心。
アルカリ性
水のように冷静になって思い切り、物事が新たな楽しみへ転じ変わる。
甘味
自分をまとう欲(泥)を捨て
いんねん、運命を切り替える。
展開

くにとこたち不足時:
高血圧、不安症
ストレス過多、高熱、過緊張、不眠症、眼の身上 etc.

『この道は言うて聞かず道やない。行うて見せる道や』
自ら勇んで通り、その姿を周りや社会へ映していく時、世界が変わってくる。逞しい往還道へと繋がっていく。また、見聞き、経験する事象、現象が、なぜ、どういう理で現れたのか、"自分は"どういう理を尽くすのか、自ら思案し悟ることが大事になってくる。同じ物事でも見方が変われば、景色が変わる。全て心通りに映っていく。

物事の道理に沿って、時旬に引き出し、成長をもたらす状態。
-引き出し3割の意識加減-
不足:
物事の表面部分が目について、隠れた長所や本質を引き出せない状態。また道理に反し、引き出し方に無理がある状態。

成長
陰での働き
時旬を見定め、陰の働きや隠れた長所を根気よく引き出す実りの心
陽3:陰7
⑨をふとのべ
体内:出産時に子を引き出す働き
身長、爪、毛髪の成長、思い出す、閃き
世界:引き出し一切、潜在的なものを引き出す働き、教育、動植物の成長

西 立冬
九日 苦がなくなる
冬至
北
立春
一日はじまる
北東 春分
十日十分
朝

婦 ④いざなみ
女、苗代(環境)の働き
素直に受け入れ育む心
四日 仕合せ
陽7:陰3
⑩たいしよく天
体内:出産時に親子の胎縁(臍の緒)を切り、死ぬ時に息を引き取る働き。散髪、爪切り
世界:切ること一切
細胞分裂、食物の収穫
※太陰太陽暦

循環
陽での働き
必要不要を嗅ぎ分け、味わい咀嚼して迎え入れ、残留物は流す循環・順応の心
七日 なんにも言ことない
立夏
東
昼
陽7:陰3
⑦くもよみ
体内:嗅覚、味覚、咀嚼、飲み込み、消化吸收、排泄、代謝、解毒、免疫、循環調節理解、記憶、(不要な情報を)忘れる、生活リズム世界:あらゆる循環(水など)、溶解(分解、酵素)→蒸発(吸収、分離)→気体→雲(凝固、老廃物)→降雨、降雪(排泄)
お金やモノの循環

物事の道理に沿って、柔軟に循環する状態。
腹七分目 -
不足: ①物事を強引に受け入れ、闇雲に流れてしまう状態。暴飲暴食・下痢状態。咀嚼しきれず、味わえず、消化・吸収できず。大雨洪水状態。物忘れの傾向。
②物事を柔軟に受け入れず、流れに反して物事に執着し手放さない状態。偏食、拒食or便秘状態。干ばつ状態。過去や現状に執着し、老廃物を流せない状態。嫌な事が頭に浮かび、忘れられない傾向
→①&②: 物事が身に付かず、朝を迎える。新たな清々しい空気、新鮮な景色を迎える。無理な辛抱や我慢

ぬくもりが陰の働きを引き出す、実りの働き。
動植物の成長は、日光によって引き出される。

聞き上手が話し上手に。耳を傾け、勇み心を八方へ。

耳を傾け平衡を持っていく。心地よい流れを与える。

不足: ①受け手にとって、風がしつこい状態。暴風状態。声や思いが通らない。受ける側は身動きが取れず、聞き分け、嗅ぎ分けできない。肥(声)をやり過ぎ、乾いて枯れた状態。

②受け手にとって、風通しが悪い状態。言葉足らずで心がじめじめと腐る状態。湿気、陰気臭い、しけた顔、ため息、虫がわく、カビ。また過度に閉め切る為に鳴る、金切声(耳障り)の状態。陰口、愚痴、毒を吐く、愛想尽かし、切り口上、捨て言葉、誹謗中傷、悪口を聞く

波動
陰での働き
新たな流れを与える働き。
言って勇ませ、聞いて楽しむ心
陽3:陰7
⑧かしこね
体内:息、呼吸、鼻で吸い(加温、加湿、清浄)口で吐く(冷暖房、加湿除湿)
声、言葉、耳、聴覚、平衡感覚
世界:風、音、空気、振動、波動
潮の満ち引き
暖かく心地のいい風、言葉が生まれる。
言葉は命
運命を変える
この世。人間の世界。酸性
変化を楽しむ心。
塩分
辛味

陰の働きを有難く思い、こみ上げてくる明るいぬくみの心
陽7:陰3
②をもたり
体内:体温、活力、炎症
感情、交換神経、運動神経
世界:火、太陽、熱、光、電気
マントル、エネルギー、晴れ
プラス電子、S極、昼
意識領域。

右の役割
手の働き。繋いでぎゅっと握る。
体裁を気にせず、阿呆になる。
物事の繋がりを生む理。
ほこり、いんねんを身上事情に現し"ためじ"をする。

人を助ける処に、自分が助かる。
相手とともに、皆で助かっていく道。
ヒント!
【二つ一つの理とその均衡】
対になる働きは助け合い、シーソーのようによく運動して作用する。
①くにとこたち: ②をもたり
③いざなみ: ④いざなみ
⑤くにさづち: ⑥月よみ
⑦くもよみ: ⑨をふとのべ
⑧かしこね: ⑩たいしよく天

挨拶は風の働き。声は肥。相手の状態に合わせて自ら吹かそう。柔軟にかける言葉は変えよう。

陰の働きを有難いと思えた理。湧き上がってくるぬくみの心。温かい光で周りを明るく照らす、見える働き。物事の原動力となる。我が事を忘れ、人を喜ばせ、助けたいという想い。感謝、情熱が行動へ

人の埃が見える間は、自分にもそれだけの埃がある...
心のほこり(※毎日払い、人にはこりを積まさぬよう)
おいしい、ほしい、かわいい、よく、こうまんにくい、うらみ、はらだち、嘘、追従(我が身心を捨てる)